



2016年12月6日
一般社団法人 日本オーディオ協会

「音の匠」顕彰について

日本オーディオ協会は、音楽・オーディオ・レコード・放送など「音」の文化について多くの人々に認識していただき、オーディオ文化と産業の発展のために、一般社団法人日本レコード協会、一般社団法人日本音楽スタジオ協会などと共に、1994年に12月6日を「音の日」と制定しました。

この12月6日は、かの発明王トーマス・エジソンが1877年、世界で初めて錫箔円筒式蓄音機「フォノグラフ」を発明した日であり、まさに音の文化、ひいてはオーディオの誕生日ということになります。

当協会ではこの「音の日」にちなみ1996年より、「音」および「音楽」を通じて、文化創造や社会貢献に卓越した能力を持ち、実践している「個人」、また「組織」を「音の匠」として顕彰しています。

「音の匠」顕彰者一覧

- 1996年 針谷 照氏（東日本旅客鉄道株式会社上野保線区）
- ・ 路線の状態を小ハンマーによる打音で判断
西日本旅客鉄道株式会社 技術開発推進部
 - ・ パンタグラフの風切り音低減により時速300キロの新幹線「のぞみ」運行を実現
- 1997年 前田 仁氏
- ・ 讃岐特産の石「サヌカイト」をもとに楽器を製作し音の文化の向上に努める
篠原 儀治氏
 - ・ 江戸風鈴の技法に独自の工夫を加えながら伝承している
明珍 宗之氏
 - ・ 鍛冶の技法による伝統工芸を守り独自の火箸風鈴を考案し伝承している
(氏名・功績 順不同)
- 1998年 高橋 美智子氏・佐々木硝子株式会社
- ・ 伝統あるガラスの楽器・グラスハーブの製造と演奏活動
- 1999年 松下 和生氏（(社)日本ピアノ調律師協会会員）
- ・ 演奏家が求める音色等、演奏者を支える重要な役割を担うピアノ調律
- 2000年 清水 虔氏（びんてふ友の会名誉会長）
- ・ 紀州備長炭によるビブラフォンを製作
- 2001年 竹内 正実氏
- ・ 世界初の電子楽器といわれるテルミンによる積極的な演奏活動や出版・啓蒙活動
- 2002年 服部 文雄氏（ビクターエンタテインメント）、馬場 哲夫氏（ソニーミュージックコミュニケーションズ）、梅沢 清氏（日本コロムビア）、東 孝一氏（松下電器産業）、柿沼 敬二氏（東芝EMI）、成瀬 庸介氏（ソニー）、鶴島 克明氏（ソニー）、木目 健治朗氏（三菱電

機)、林 英昭氏 (日本コロムビア)、鈴木 雅臣氏 (アキュフェーズ)、池戸 勇二氏 (パイオニア)、西川 和男氏 (パイオニア)、桑岡 俊治氏 (日本ビクター)、阿部 忠氏 (松下電器産業)、田中 伸一氏 (松下電器産業)、安田 博氏 (松下電器産業) Joop Sinjou 氏 (フィリップス)、Jacques Heemskerk 氏 (フィリップス)、土井 利忠氏 (ソニー)、小川 博司氏 (ソニー) (順不同)

・ CD の開発および改良に貢献した技術者 20 名 (CD 発売 20 周年記念)

2003 年 玉井 和雄氏 (元文化放送 編成局 制作部)

今井 裕氏 (日本放送協会 放送技術局)

久保 光男氏 (日本放送協会 放送技術局)

・ テレビ放送 50 周年にちなみ番組制作での音響デザインや効果音制作活動(順不同)

2004 年 野田 員弘氏 (株)野田鶴声社

居石 浩己氏 (日本放送協会 放送技術局)

井上 哲氏 (テレビ朝日映像 (株) 技術局)

・ オリンピック年にちなみスポーツ分野で音の技術と文化に貢献した方々 (順不同)

2005 年 内沼 映二氏 ((株) ミキサーズ・ラボ)

沢口 真生氏 (パイオニア (株))

西尾 文孝氏 (ソニー (株))

(特別賞) エリオット・シャイナー氏 (米国・制作・録音技術者)

・ ステレオからサラウンドまでソフト・ハードの垣根を越えての取り組み (順不同)

2006年 三宮 麻由子氏 (エッセイスト)

・ 聴覚の素晴らしさの啓発活動

2007年 森田 健次氏 (給水部給水課)、越坂部 信男氏・氏井 行雄氏 (中央支所給水課)、古川 敏雄氏・西生 智憲氏 (東部第一支所給水課)、大畠 秀男氏・軽部 晴久氏 (東部第二支所給水課)、守嶋 靖之氏・齋藤 純一氏 (西部支所給水課)、高橋 寿氏・伊東 松見氏 (南部第一支所給水課) 田中 功之氏・門馬 光成氏 (南部第二支所給水課) 安田 幸作氏・加藤 真氏 (北部支所給水課)

・ 音聴技術を用いて漏水の発見に努め水資源の有効活用に貢献する東京都水道局の職場代表者 (順不同)

2008年 中村 啓子氏 (ナレーター)

・ 公共機関における明瞭で親しみのある案内活動

(特別賞) 山下 桜氏 (パイオニア(株))

・ 聴覚に障害がある人達に音楽の楽しさを体験してもらう活動

2009 年 井上 正二郎氏 (オルゴールの小さな博物館)

大谷 勲氏 (おでんせ)

大森 裕武氏 (ハイランドアンティーク)

・ アンティークオルゴールの技術と音を継承する修理技術者 (順不同)

(特別賞) 名村義人氏 (オルゴールの小さな博物館館長)

・ アンティークオルゴールの普及活動

- 2010年 澤登 翠氏（活動弁士）
- ・ 伝統話芸・活動弁士（活弁）を継承し、多彩な語り口で人々に感動を与える活動
- 2011年 三橋 貴風氏（尺八演奏家）
- ・ ノブレ管を用いた安価な尺八の開発、またその普及活動
- 2012年 伊福部 達氏（東京大学高齢社会総合研究機構・特任研究員・名誉教授 工学博士）
- ・ 緊急地震速報音（NHKの非常放送用）の研究と開発
（音の匠特別功労賞）八日市屋 典之氏
 - ・ 金沢蓄音器館館長（貴重な蓄音機やレコードの文化継承）
- 2013年 剣持 秀紀氏（ヤマハ株式会社 事業開発部 VOCALOID プロジェクトリーダー）
- ・ “VOCALOID”の開発・応用による「新たな、音楽及び音の表現方法により、新しい文化を創造」
- 2014年 森阪 匡通氏（東海大学創造科学技術研究機構・特任講師 理学博士）
- ・ 「イルカの生息域に依存する鳴き音の違い」など数々の発見や、「イルカの鳴き音によるコミュニケーション方法の研究」など、多くの論文を発表。音とイルカの研究の第一人者
- 2015年 大崎 茂芳氏（奈良県立医科大学 名誉教授 理学博士・農学博士）
- ・ 生体の分泌する代表的なタンパク質としてクモの糸の物理化学的研究に長年取り組み、多くの著書や論文を発表され、実現化に向けてクモの糸の機能性を明らかにするために、クモの糸でヴァイオリン用の弦を作成された
- 2016年 本田 泰氏（株式会社ニチオン 相談役 日本音叉研究所 所長）
- ・ 長年にわたる「音叉製作」の研究を通し、音楽業界は勿論のこと医療機器業界等への「音叉」の広範な応用を提案され、その高精度化と多用途化に向け大いなる努力と洞察を深められた